

国立第二小学校・複合公共施設設計経過説明書

令和3年2月

学校づくりの理念と5つのコンセプト

国立市教育員会では、2019（令和元）年7月に、建設する新校舎の基本構想・基本計画として、「国立第二小学校改築マスタープラン」を策定しました。

その検討の中で、学校関係者や保護者、地域の方々との意見交換を重ね、未来の二小が目指す姿である学校づくりの理念と、それを実現するための5つのコンセプトを立案しました。

基本設計の検討を進めるにあたっては、この理念とコンセプトを実現することを目的として、平面計画や設備計画の立案を行いました。

学校づくりの理念

「～つづく つながる～ 夢を育てる学び舎」

二小には「四季折々の佇まい」と「子供の幸福と成長を願う協働的な教育活動」という学校と地域が守り育てたかけがえのない財産があり、校舎の建て替えに際しても、その財産を継承したいという思いがこの理念には込められています。



学校づくりの理念と5つのコンセプトを実現する整備方針

1. 学びを生みだし共に育み学び合う →魅力的で多様な教育環境づくり

普通教室は、学年共用スペースを囲むように普通教室と多目的スペースを配置します。学年ごとの活動の場となる学年共用スペースを配置することで、よりクラス同士がつながる環境を目指します。普通教室と学年共用スペースと多目的スペースは、一体に使用することができ、多様な学びの場を生み出します。特別支援教室(はばたき)、特別支援学級(プラタナス)は、職員室と東広場の近くに配置し、落ち着いた専用ゾーンを形成します。

2. 自然とふれあい豊かな心を育てる →既存樹木を活かした緑に包まれた小学校

芝生の校庭や、四季の移ろいが感じられる木々等、これまでの景色を大切にします。学校のどこにいても豊かな緑が感じられ、のびやかで気持ちの良い学びの環境をつくります。

3. 世代を超えて伝統を未来へつなげる →シンボルツリー「二松」の保存

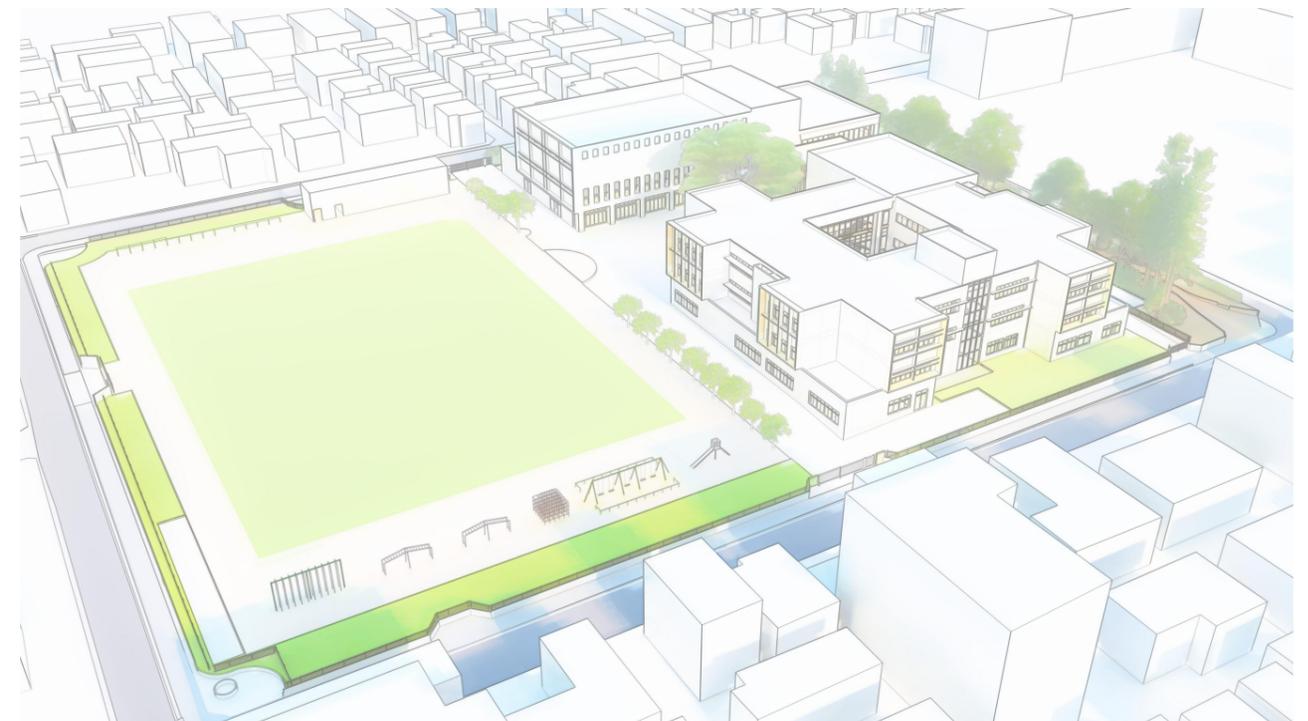
校舎棟と体育館棟に囲まれた広場には学校のシンボルである二本の松の大木「二松」を保存します。校庭には土壇を再生して、現在の二小の姿を継承します。

4. 絆を大切にし地域と共に育つ →学校と福祉館と緑地広場を一体的に整備

体育館棟は学童と地域のコミュニティ施設機能を併せもつ複合施設として整備します。敷地の東側の緑地を継承して、自然豊かな広場として、日中は地域にも開放し、乳幼児からお年寄りまでが自由に集える地域の拠点とします。

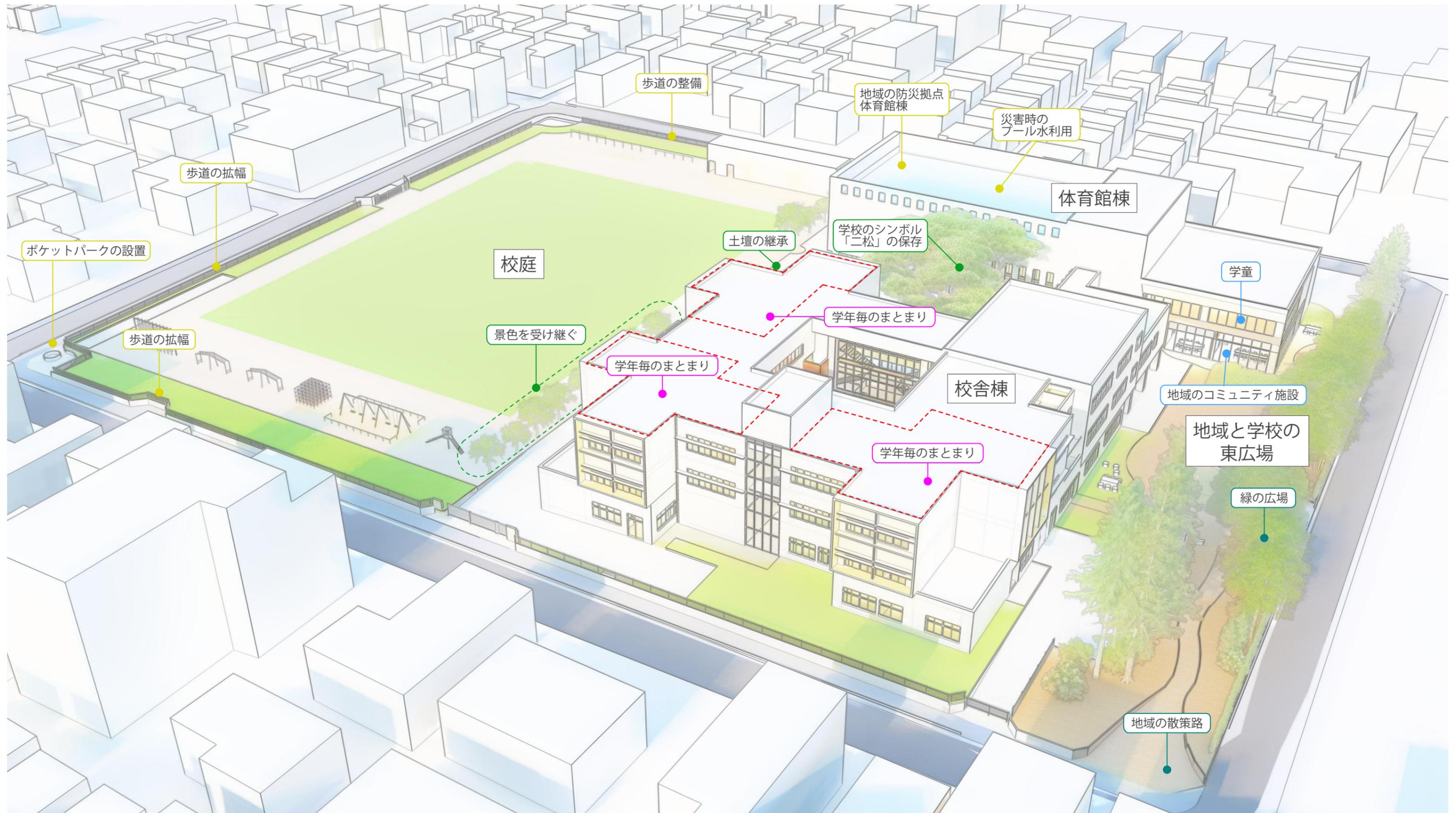
5. いつでも誰でも安心安全に過ごせる →体育館棟を中心に避難所機能の充実

体育館棟は、備蓄倉庫や空調設備等を備えた避難所として整備します。屋上プール水は消防水利として利用出来る計画とします。学校専用の部分と地域利用部分を明確に区分できる計画として、安心していつでも、誰でも使いやすい建物とします。また、通学路となる敷地周囲の歩道は拡幅し、安心して歩くことのできる計画とします。



鳥瞰パース 校庭側から

「学校づくりの理念と5つのコンセプト」を実現する工夫（イメージ図）



建物配置計画

建設コストを抑えるため仮設校舎を必要としない計画とします。
 またこれにより引越しの回数を減らすことができ、児童や先生方の負担を減らすことが可能となります。
 敷地の北側にある既存校舎を残しながら改築工事を行い、既存校舎は新築後解体します。敷地の南東側に校舎棟を配置し、北東側にはアリーナや、コミュニティ施設、学童の機能を持った複合施設となる体育館棟を配置します。これにより、これまでの北側校舎+南側校庭の配置から東側校舎+西側校庭の配置へ一新します。
 プールは体育館棟の屋上に配置することで、グラウンドを広く活用できます。

グラウンド

校舎を敷地の東側に配置することで、敷地の西側に大きなグラウンドを計画します。

東広場 ※開放時間については検討中

敷地東側一体を「東広場」として継承して、日中は地域に開かれた広場として整備します。学校だけではなく地域みんなの憩い・遊びの場となります。

周辺道路の歩道整備

敷地南・西側道路は既存歩道を拡幅し、北側は歩道を新たに設けます。東側には東広場を設けて、学校の四周全てが安全な通学路とし、歩道の各所にはひと休みできるようなポケットパークを整備します。

これまでの景色を継承する

二松等の樹木は可能な限り保存します。校庭の芝生は継承します。校庭の中心にある土壇は新しく校舎と校庭の中心に配置し、土壇のある景色や活動を未来へつなげます。



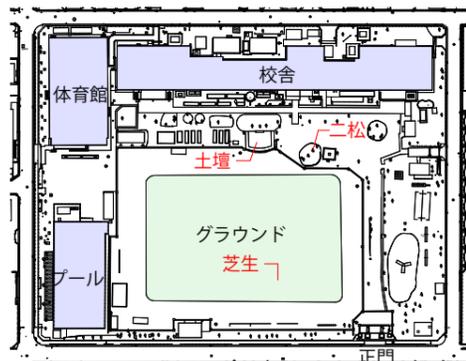
二本松「二松」

芝生の校庭

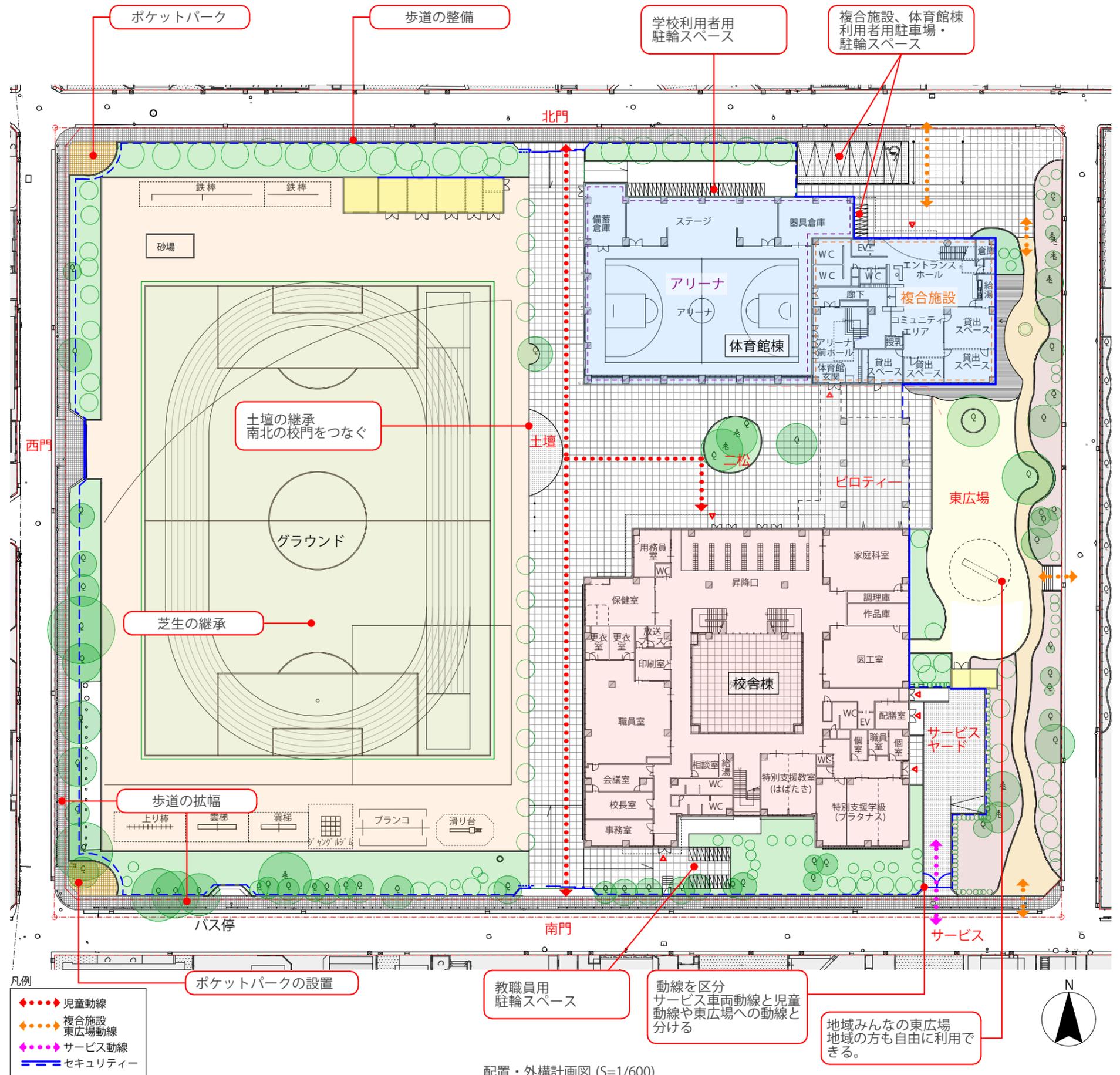
土壇

アプローチ

複合施設、東広場、給食搬入等の各動線はそれぞれ個別のルートを設定して安全に区分します。



現況図(S=1/2500)



平面計画 3階

2階と同様に東・南・西側に普通教室を学年のまとまりを持って配置します。
 各学年毎に学年スペースを中心にして各学年毎にグルーピングして配置します。
 校舎北側の体育館棟に近い部分に音楽室と理科室を配置します。普通教室から離れた
 落ち着いた特別教室の活動が可能となります。



校舎棟 3階平面図(S=1/400)



校舎棟 南西側立面(イメージ)

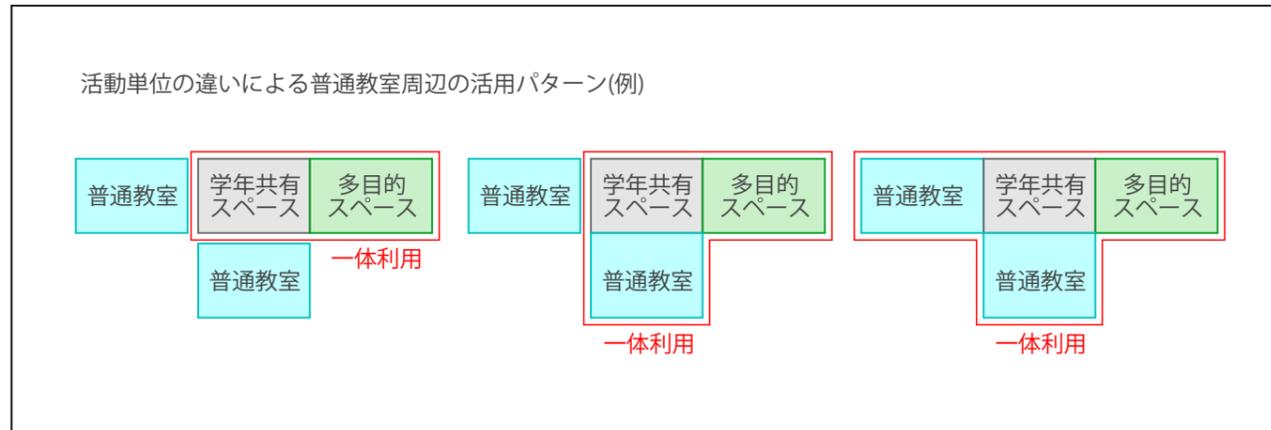


校舎棟・体育館棟 西側立面(イメージ)

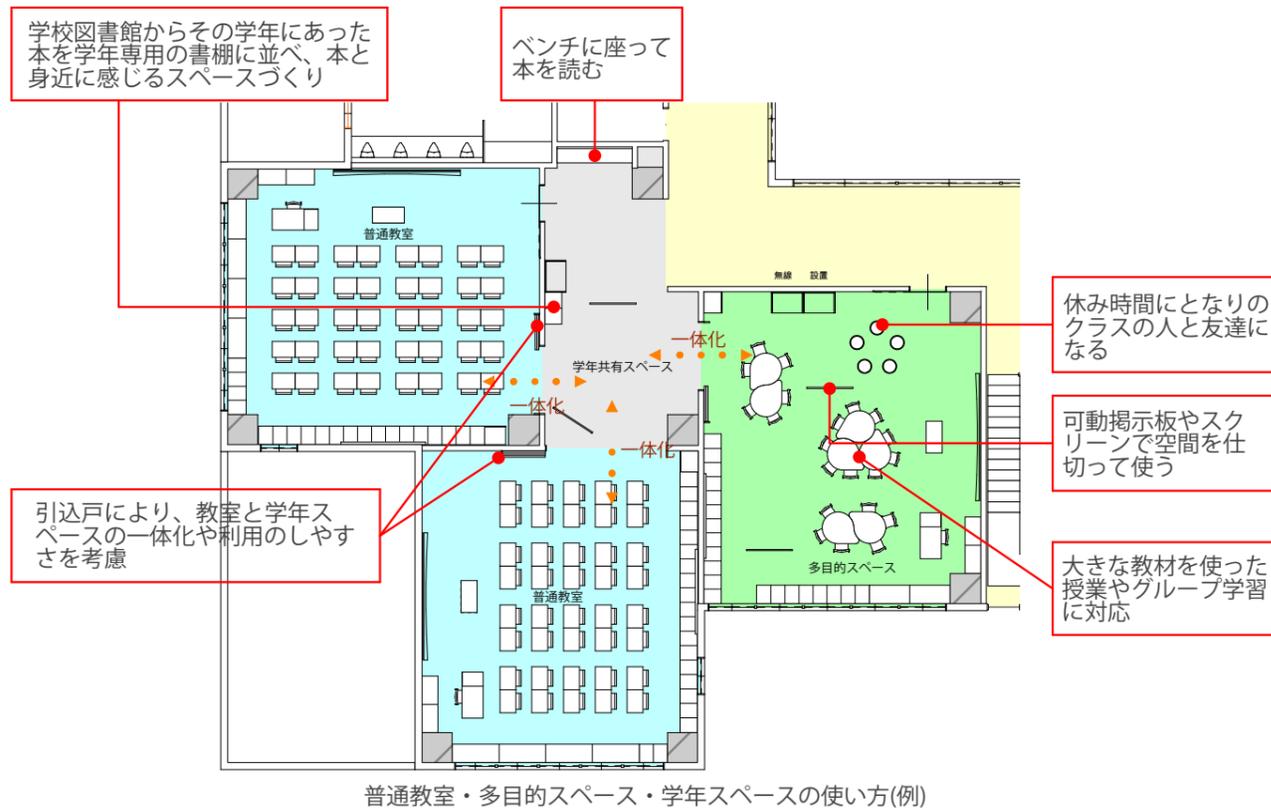
クラス同士がつながる、1学年単位の落ち着いた居場所をつくります。

学年のまとめり

普通教室に学年専用の共用部を併設させ、多様な学びに対応するレイアウトとします。
 1学年を(2学級+学年共有スペース+多目的スペース)で構成しており、多目的スペースは児童数増加時には普通教室としても転用可能です。
 多目的スペースでは、さまざまな学年活動、少人数に分かれての指導、グループ学習などを行うことができ、学年共有スペースとの一体利用によって広く使うことも出来るため、クラス同士でつながり、共に学ぶ機会を生み出します。



学年共有スペースの様子(イメージ)



普通教室の様子(イメージ)